

大腸カメラおよびポリープ切除術 同意書

この検査は大腸の中を直接内視鏡にて観察し、細心の注意を払いながら診断を行う方法です。

1. 検査中に何かの病変がみられたり、また疑われた場合にはより正確な診断のため、必要に応じて以下のようなことが行われます。
 - ① 粘膜組織の一部を鉗子でつまみ組織の検査（生検）を行います。
 - ② 病変部位に安全な色素を散布し（色素散布）、病変を明瞭にして診断の助けとします。（あとで着色された便が出ることがあります。）
2. 出血が見られた場合には、必要に応じて止血操作（内視鏡的止血術）を行います。
3. 内視鏡検査による危険性としては以下のようなことが報告されています。
 - 1) スコープによる粘膜障害（粘膜亀裂）や裂傷。
 - 2) 生検による出血や穿孔（腸に穴が開くこと）。
 - 3) 前処置の薬剤による副作用（頻脈、尿閉、局所麻酔剤アレルギーによるショック等）。
 - 4) 偶発症の頻度は0.011%で、死亡率は0.00004%です（第6回全国調査報告）。

4. 大腸ポリープ切除術に関して

ポリープが確認され、治療が妥当と判断された場合は同時に切除します。大腸ポリープの切除に伴う、偶発症発生頻度は0.48%（約208人に1名の割合）と報告されています。その内容は①出血、②穿孔、③その他です。偶発症に対しては内科的治療で対応できることが多いですが、まれに緊急手術が必要なこともあります。

（消化器内視鏡関連の偶発症に関する第6回全国調査報告より、日本消化器内視鏡学会）

#ただし、以上の危険性には細心の注意を払いながら内視鏡検査は行われます。

万一、緊急事態が生じた場合には、入院や緊急の処置・手術が必要になることがありますが、責任を持って対処いたします。

#私は内視鏡検査の目的と方法、危険性について上記の記載事項を読み、主治医の説明を了承しました。

私はえだがわ胃腸内科クリニックにて内視鏡検査を受けることに同意します。

令和 年 月 日

患者または代理人氏名（署名） _____

（代理人の場合、患者との続柄 _____ ）

説明医師 : えだがわ胃腸内科クリニック 枝川 豪